愛知芸大で培ったものを、フランスで育てた10年間

音楽学部作曲専攻作曲コース 2006年度卒業
坂田 直樹さかた・なおき

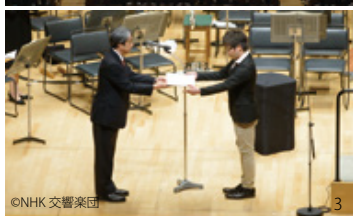
1981年、京都市生まれ。パリ在住。愛知県立芸術大学、パリ・エコール・ノルマル音楽院をそれぞれ首席で卒業。
パリ国立高等音楽院を修了ののち、IRCAMにて研修を受ける。
入野賞、武満徹作曲賞第1位、尾高賞、芥川作曲賞など受賞多数。
これまでにサントリー芸術財団、フランス・ミュージック、フランス文化省など国内外からの委嘱を受け、
作品はNHK交響楽団など、威信のある団体により演奏されている。

私は2003年度から4年間、愛知県立芸術大学の作曲専攻で学びました。在学中はとにかく沢山の曲を書いて、同期の友人と演奏会を開いたり、充実した日々を送ることができました。また、美術学部と音楽学部で積極的に自主企画が行われていたので、音楽以外の世界に触れる機会もあり、大きな刺激になりました。ほかに、当時は芸術祭で朝までお酒を飲みながらばか騒ぎをしていたような時代だったのですが、そこでは創作の苦楽を分かち合う仲間と、何にも代えがたい夢のような時間を過ごすことができました。

振り返ってみると当時の作品はとても稚拙で、結局のところ録音や楽譜はおおかた破棄することになりました。一方で、未熟ではありながらも、そのとき自分が感じていたリアリティを追求したことは、その後の音楽活動に対して大きな糧になったと感じています。

2007年に大学を卒業後、フランスに留学しました。近代から現代までフランスの音楽に特に興味を持っていたので、国選びに迷いはありませんでした。音楽学校としては世界で最も歴史と伝統があるパリ国立高等音楽舞踏院や、音楽における先端技術の応用について、世界でも最高峰の研究施設のひとつであるIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）にて研鑽を積むことで、愛知芸大で得たものを大きく成長させることが出来たと思っています。たとえば、先述の二施設では充実した電子音楽の経験を得ることができました。テクノロジーを用いた制作は自分の耳に変化をもたらし、器楽作品に対する取り組み方にも影響を及ぼしました。また、海外で生活することで、自分のアイデンティティについても深く考えることになりました。試験やプロジェクトの売り込みなど、音楽について言語化する機会も多く、より自覚的に自分の美学を見つめることになりました。

フランスでの学生生活を終え、この10年の集大成として制作したオーケストラのための《組み合わされた風景》は2017年度武満徹作曲賞第1位、第66回尾高賞、第28回芥川作曲賞の3作曲賞受賞という幸運な結果につながりました。ヨーロッパでの経験が評価されたことを嬉しく思うと同時に、誰からも指摘のない曲の一部分に思いを巡らせています。実は、愛知芸大時代の担当教官であった寺井尚行先生から学んだオーケストレーションが作品内に施されています。10年以上前に実践したことが、作品のなかに突然浮かんでくることに驚きと懐かしさを覚えます。この曲は、徒手空拳の自分を育ててくださった彼に捧げられています。



1.2 NHK交響楽団による
「ミュージック・トゥモロー2018」での
《組み合わされた風景》の演奏風景
3 NHK交響楽団による
「ミュージック・トゥモロー2018」での
第66回尾高賞授賞式